



病虫害防除情報

令和6年8月6日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 チャのチャノミドリヒメヨコバイについて

2 情報内容

(1) チャノミドリヒメヨコバイの発生状況

4月以降、本虫の発生量*が平年を大きく上回って推移しています。7月中旬の発生予察調査における発生量は過去10年間で最も多く、平年の2倍以上となっています(図)。

また、本県の茶業研究所(入間市)の県予察ほ場にて7月に実施した調査では、本虫による被害芽率は66%(平年値54.9%)と発生が多くなっています。【*発生量:発生面積に、発生程度に応じた係数を掛けたもの】

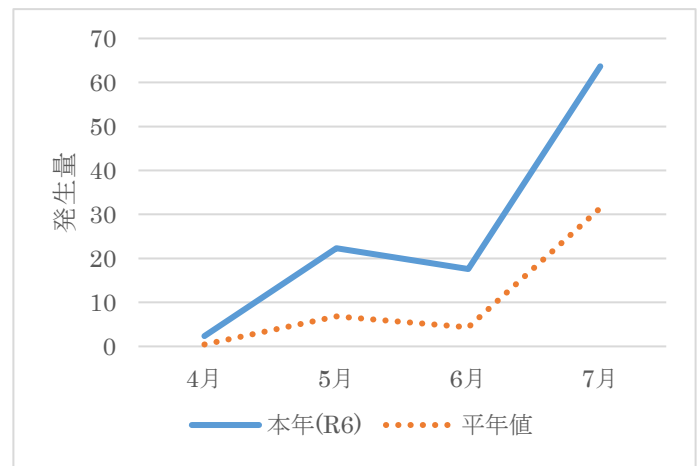


図: チャノミドリヒメヨコバイの発生量

(2) チャノミドリヒメヨコバイの特徴と被害

成虫の体長は約3mmで体色は淡緑色、幼虫は黄緑色をしています(写真1,2)。成虫で越冬し、6月下旬から発生が目立つようになり、7月と9月に多発する傾向があります。本虫の吸汁・加害により、葉脈褐変・葉色の黄化や葉の湾曲が発生し(写真3、点線内)、加害が進むと葉の辺縁部に黒色の枯死部が見られるようになります(写真3、矢印部分)。



写真1: 成虫



写真2: 幼虫



写真3: 被害葉
黄化や湾曲が生じ、加害の進展により
辺縁部が黒変・枯死する。

(3) 防除のポイント

乾燥した晴天が続くと急激に増殖することがあり、秋芽の萌芽および伸長期の被害につながります。本虫は若い葉や幼梢を好むため、8月のうちに三番茶芽の上位3葉を整枝すると発生抑制効果があります。今後の、秋芽の萌芽および伸長期の加害は被害が大きくなりやすいため、芽の生育と本虫の発生状況に合わせ、表を参考に早期の防除につとめてください。

表2 チャのチャノミドリヒメヨコバイの防除薬剤例

薬 剤 名	IRAC コード	使 用 時 期	使用回数
コテツフロアブル*	1 3	摘採 7 日前まで	2 回以内
ガンバ水和剤*	1 2 A	摘採 1 4 日前まで	1 回
スタークル顆粒水溶剤/ アルバリン顆粒水溶剤	4 A	摘採 7 日前まで	2 回以内
ハチハチフロアブル*	2 1 A	摘採 1 4 日前まで	1 回
ウララDF	2 9	摘採 7 日前まで	1 回
コルト顆粒水和剤	9 B	摘採 7 日前まで	2 回以内
ヨーバルフロアブル	2 8	摘採 7 日前まで	1 回

* 劇物 (使用基準は令和6年8月5日現在)

※ IRAC コード及び FRAC コードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中（令和6年5月1日～8月31日）

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661